

第2学年1組 生活科学習指導案

令和5年6月1日(木) 5校時
男子16名 女子10名 計26名
指導者 腰塚 典子
場所 2年1組教室

- 1 単元名 ときどき わくわく まちたんけん 内容 (3)「地域と生活」
(8)「生活や出来事の伝え合い」

2 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく活動的である。5月に実施した生活科「1年生となかよくなるろう会」では、1年生が知りたいことは何か、どんな態度で接したら良いかを、自分たちが1年生だった時を思い出しながら積極的に行動する姿が見られ、2年生としての自覚も少しずつ出てきている。

学級の半数が学童クラブに通っているため、放課後に友達と遊ぶ経験をしていない児童も多い。自分の家の周辺でしか遊べなかったり、友達の家を知らなかったりする児童もいる。クラス替えをして新しい友達も増え、1年生の時よりも行動範囲が広がっているからこそ、地域を学習の場としながら、地域に住む人や物について深く関わりが合うことを通して、地域に対する視野を広げ愛着をもてるようにしたい。

(2) 単元設定の趣旨

本単元は、学習指導要領1学年及び2学年の内容(3)「地域と生活」、(8)「生活や出来事の伝え合い」を受けて設定したものである。内容構成の具体的な視点としては、イ「身近な人々との接し方」、ウ「地域への愛着」、カ「情報と交流」を取り入れている。

(3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人々や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適せつに接したり安全に生活したりしようとする。

(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

本単元では、児童にとって身近な生活圏である校区に出かけ、そこで生活したり働いたりしている人々と接したり、様々な場所を調べたりすることを通して、自分たちの生活が地域の人々や場所と深くかかわっていることに気づき、地域に親しみをもって進んで交流し、安全に楽しく生活することができるようにすることをねらいとしている。

(3) 指導について

地域は、児童にとって生活の場であると同時に大切な学習の場でもある。町探検の学習活動を通して、身の回りにある自然・人・ものが自分の生活と関わっていることを意識し、地域の人々やそれらの場所に親しみの気持ちや愛着をさらに深められるようにしたい。

本単元は、4つの小単元から構成されている。

「まちのことを話そう」では、「おすすめ場所はありますか」と問いかけ、地域の好きな場所やお気に入りの場所を考えさせ、興味をもたせる。自分のおすすめの場所を伝え合うことで、児童一人一人の学習意欲を高めていく。何となく過ごしていた町には、自分だけでは気付かない魅力的な場所や人々がいることに児童同士の交流をきっかけに気付けるようにする。

「たんけんの計画を立てよう」では、行きたい場所について話し合い、児童の願いや思いを大切にグループごとに探検の計画を立てていく。また、「安全への意識を高める」「時間を守る」「適切な挨拶ができる」ことは、児童が身近な人々、社会及び自然と直接関わりが合う中で身に付けられる絶好の機会と捉え、十分に確認しておく。

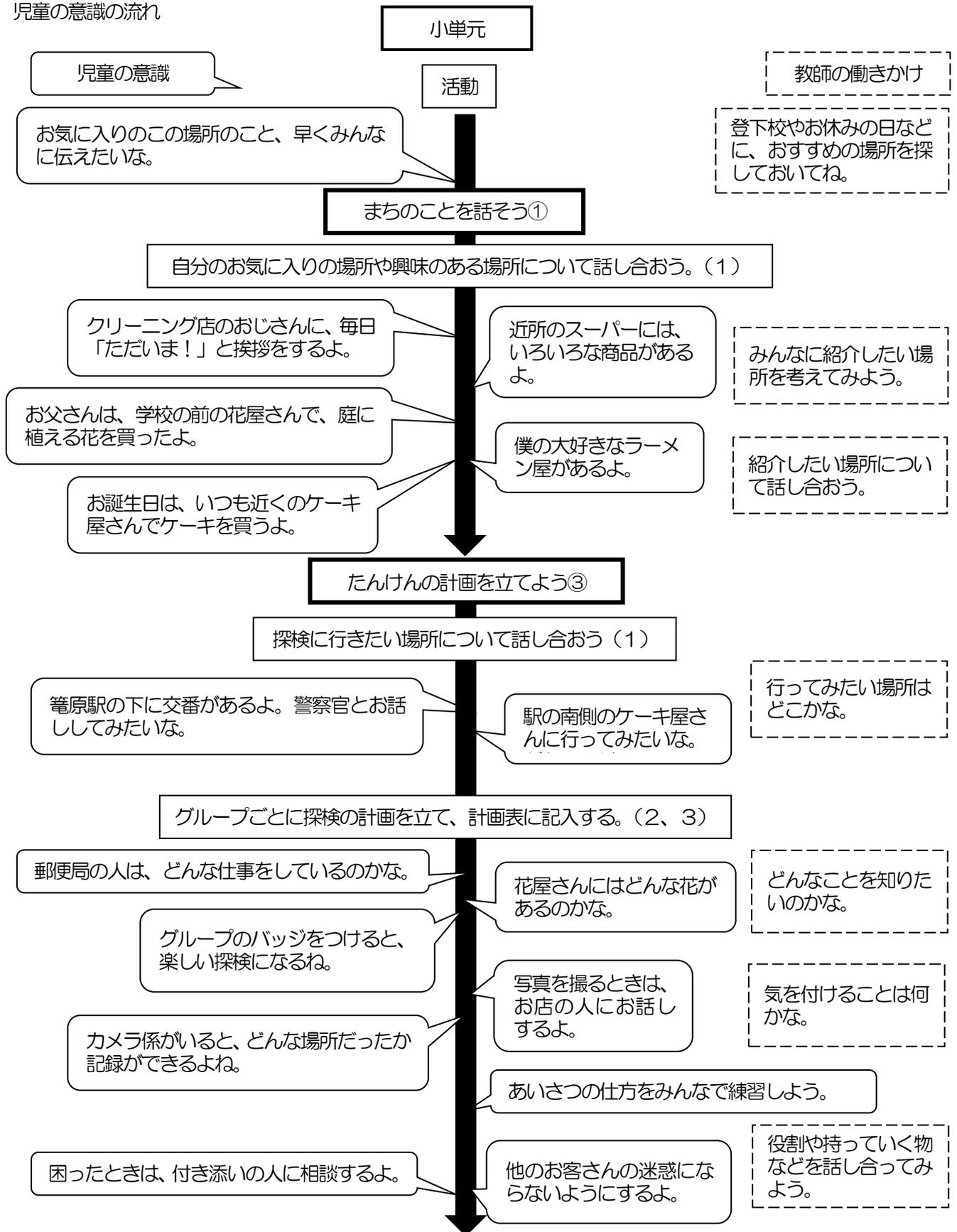
「まちたんけんをしよう」では、見つけた物や場所が自分の生活と関わっていることに気付かせたい。また、国語科の学習を関連させ、挨拶の仕方やインタビューの仕方、メモの取り方なども事前に指導しておく。

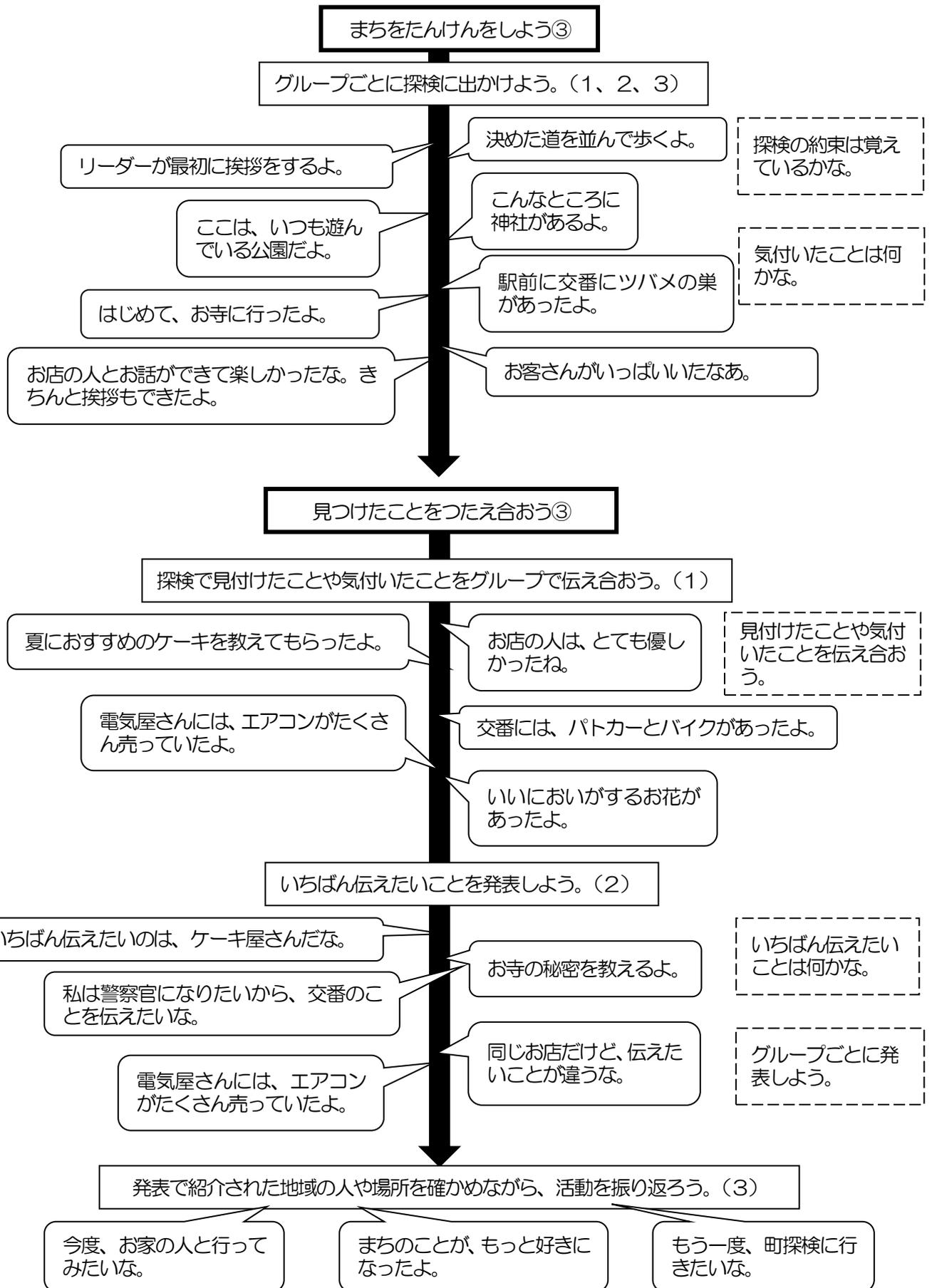
「見つけたことをつたえ合おう」では、同じ行き先でも児童によって気付きは異なるので、児童たちの力で多様

な気付きを整理できるよう、付箋やカードを活用していく。

本時の指導に当たっては、町探検を通して発見したことの中から、一番伝えたいことを発表する場を設定することで、新たな関心をもたせ活動を広げ深めていく。気付いたことや得た情報を学級で伝え合うことで、互いの意見を認め合い、町全体のよさや、自分のよさにも気付かせたい。そして、秋にもう一度探検を行うことを伝え、地域への愛着や親しみを持ち、自分も町の一員とし、希望をもって生活しようとする児童を育てていきたい。

3 児童の意識の流れ





4 学校研究課題との関わり

学校研究課題（生活科・総合的な学習の時間）
「結びつき」で学びを深める～オーセンティックな授業づくりを目指して～

①学習内容⇔生活の場面

- 単元の導入場面では、探検マップに、自分の家の場所にシールを貼らせたり、自分の家の周りや学区でおすすめの場所や好きな場所を付箋に書かせたりして、身近な地域に関心をもたせる。

②生活・総合⇔他教科等

- 「見つけたことをつたえ合おう」では、国語科と関連させ、順序よく書き、話すことによって相手に伝わりやすい文章を書けるようにする。
- 道徳科「ながいながいつながくろ」では、生活科での学習を想起させ、地域に住む方々や私たちのために安全に登校できるようにしてくださる方々と触れ合うことで、自分たちの住むまちに愛着がもてるようにする。

③自分の気付き⇔他者の気付き

- 見つけたことや気付いたことを書いたカードを見せ合い、友達の内容と比べながら、新たな発見や出会いを伝え合うようにする。
- グループごとの振り返りでは、同じ行き先でも児童によって異なる気付きが得られることもあるので、多様な気付きを整理できるよう、付箋やカードを活用する。

④前の自分⇔今の自分

- 町探検の活動を通して、新堀学区がより身近でより親しみがもてるように、学習する前の自分の考えと学習した後の記述を振り返ることによって、より新堀地区のことに興味をもち、自分自身の成長にもつながったことを実感できるようにする。

5 単元の目標

地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所と自分との関わりを見付け、地域にはさまざまな人がいることに気付くとともに、地域の場所や人に親しみをもち、適切に接したり、安全に気を付けて生活したりしようとすることができるようにする。

6 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、自分の身近な地域には、さまざまな場所があり、さまざまな人がいることに気付いている。	地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、身近な地域の場所と自分との関わりを見付けている。	地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所や人に親しみをもち、適切に接したり、安全に気を付けて生活したりしようとしている。
学習活動（小単元）における評価規準	1	① 地域には、自分の知っている場所やまだ知らない場所など、いろいろな場所があることに気付いている。		
	2		① 行ってみたい場所や見てみたい物を思い描きながら、探検の計画を立てている。	① 友達や自分の生きたい場所や定められた時刻に応じて、探検する場所を調整したり、順番を変えたりしようとしている。
	3	② 身近な地域の場所が、自分の生活と関わっていることに気付いている。 ③ 地域を探検する際、定められた時刻を守っている。	② 見つけた物や場所について、自分の生活と結び付けながら、地域の人に質問したり話したりしている。	
	4	④ 身近な地域には自分たちの生活と関わっている場所がたくさんあり、それらが自分たちの生活を楽しくしていることに気付いている。		② 身近な地域には自分の生活を楽しんでくれる場所があることを実感し、それらを自分の生活に取り入れようとしている。

7 単元の指導計画・評価計画(10時間)

小単元名 (時数)	◎ねらい ○主な学習活動(時数)	小単元の 評価規準 との関連	評価規準から想定した具体的な子供の姿 評価方法 作 作品分析 行 行動観察 カ カード分析 発 発言分析 つ つぶやき分析 相 相互評価
1 まちのことを話そう(1)	◎友達と身近な地域のことを話す中で、自分の知っている場所やまだ知らない場所などいろいろな場所があることに気づき、地域の探検に行きたいという思いを高めることができるようにする。 ○地域で、自分のお気に入りの場所や興味のある場所、不思議に思っている場所などについて話し合う。(1)	知一①	自分の身の回りにあるお気に入りの場所や行ってみたい場所について、友達と話している。 発 □
2 たんけんの計画を立てよう(3)	◎行ってみたい場所や見てみたい物を思い描きながら、友達や自分の行きたい場所や時間に応じて、探検する場所を調整したり、順番を変えたりして、探検の計画を立てようとするようにする。 ○探検に行きたい場所について話し合う。(1) ○グループごとに探検の計画を立て、計画表に記入する。(1) ○探検の計画や探検のルール・マナーを確認する。(1)	態一① 思一① 態一①	みんなの行きたい場所を地図で確認しながら、時間内に探検できる道中を話し合っている。 発 行 □ 行った先でどんなことをしたいのか、何を知りたいのかなどを友達と話しながら、探検の計画書をかいている。 発 作 □ 探検への期待感を話しながら、探検に持っていく物を用意したり準備したりしている。 発 行 □
3 町をたんけんしよう(3)	◎定められた時刻を守って地域を探検する中で、見つけた物や場所について自分の生活と結び付けながら地域の人に質問し、それらの場所や物が自分の生活と関わっていることに気付くことができるようにする。 ○グループごとに探検に行く。(3)	知一③ 思一② 知一②	探検の順序や戻る時刻、気を付けるルールやマナーについてグループ内で確認しながら、探検に出かけている。 発 行 □ 探検で見つけた物や疑問に思ったことなどについて、地域の人と話したり質問したりしている。 発 行 □ 探検で出会った人や見つけた物が、自分の生活と関わっていることについて記録カードにかいたり、友達に伝えたりしている。 作 行 □
4 見つけたことをつたえ合おう(3) 本時2/3	◎探検で見つけたことを交流する中で、地域には自分たちの生活と関わっている場所がたくさんあることや、それらの場所が自分たちの生活を楽しくしていることに気づき、それらを自分たちの生活に取り入れようとするようにすることができるようにする。 ○記録カードを見ながら、探検で見つけたことや気付いたことをグループで伝え合う。(1) ○いちばん伝えたいことを付箋にかき、絵地図に貼りながら発表する。(1)	知一④	探検で見つけたことの中から、いちばん伝えたいことと、その理由を記録カードにかいている。 カ 発 □ みんなと地域での発見を伝え合い、地域はたくさんの人や物、場所があることについて話している。 カ 発 □

<p>7 一番伝えたいことの場所ごとにグループを作り、交流する。</p> <p>8 友だちの発表を聞いて、全体で感想を伝え合う。</p> <p>9 本時の振り返りをする。</p>		<p>合うようにする。</p> <p>○探検グループではなく、一番伝えたいことの場所ごとに集まり、感想を伝え合い交流できるようにする。</p> <p>○発表を通して見えてきた地域のことや今後の自分の活動が広がりそうなことなどを、振り返らせるようにする。</p> <p>結4学習前後の自分の考えを振り返ることによって、より新堀地区のことに興味をもち、自分との関わりで捉えることができるようにする。</p>
---	--	--

9 板書計画

どきどきわくわくまちたんけん

いちばん伝えたいことをはっぴょうしよう。

①カードにかく。 → ②グループではっぴょう。 → ③おなじしよごとに、はっぴょう。

いちばん伝えたいことは

りゆうは

しゃしん

まちたんけんマップ

10 場の設定

黒 板

6はん

シノン

ゆうびん
きよく

デンキチ

1はん

5はん

ブルミ
エール

こうばん

フラピス

2はん

4はん

3はん

○ 8：本時の目標・評価基準・具体的な子どもの姿を達成できている児童の振り返りの抽出（振り返りから）



【具体的な場面や教師の効果的な発問】（授業動画を通して）

